

国保という名の ライフライン

電気・ガス・水道など、日常生活を送るために必須のものはライフラインと呼ばれます。ですがこれは自分が「健康であること」が前提の話。病気やケガのときには「保険」もなくてはなりません。現在、その保険制度である「町国民健康保険」が財政難の危機を迎えています。

医療費一部負担の国保

国民皆保険が実現している現代の日本では、医療費を気にして通院をためらう、ということはありません。これは、1～3割負担という低料金で医療を受け、残りは保険税などでまかなわれる、という国民健康保険システムの賜物です。病気やケガをしたとき、安心して医療が受けられるよう、加入者が保険税を出し合い、お互いに助け合っている制度が国民健康保険なのです。

ですが近年、町の国保加入者の高齢化や医療技術の高度化などを主な原因として医療費が急激に増加しています。また、保険の税収は不況の影響などで収納額が低下しています。

だれもが安心して医療を受けることができる国保を成り立たせるためには一体どうすればよいのでしょうか。